

調査速報

外食需要動向(2023年10月)

気温が高い日が多かった10月は、飲酒代や喫茶代などの増加が実質外食支出を押し上げた

主任研究員
佐橋 官
045-225-2375
sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 10月の実質外食支出金額(季調済)は、全国が前月比8.4%増、関東地方が同6.7%増と高い伸びとなった。10月としては季節外れに気温が高い日が多かったことから、飲食店での飲酒代や喫茶代の増加が、実質外食支出金額を押し上げる要因になったとみている。
- ただし、10月の外食産業の客数の増加率は前年同月比3.6%増にとどまり、9月の同7.5%増からは伸び率が縮小(悪化)した。消費者の節約志向の高まりが観測される。

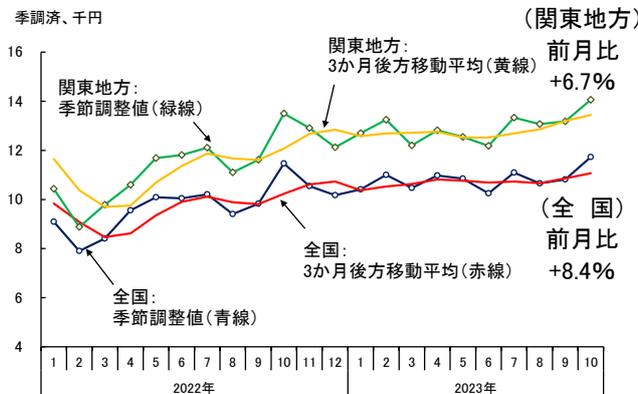
1. 10月は季節外れに気温が高い日が多く、家計の実質外食支出金額を押し上げる要因となった

総務省「家計調査」に基づく2023年10月の1世帯あたり実質外食支出金額(季節調整済)は、全国が前月比8.4%増(前年同月比2.9%増)、関東地方が前月比6.7%増(前年同月比4.1%増)と高い伸びとなった(図表1)。内訳をみると、飲食店での飲酒代や喫茶代等の支出増加が外食支出全体の押し上げ要因となっており、10月は全国的に季節外れに気温が高い日が多かったことで、外食においてもビールや清涼飲料などの需要が堅調であったと考えられる。

2. 消費者の節約志向の高まりで、外食産業における客数の増加は一巡しつつある

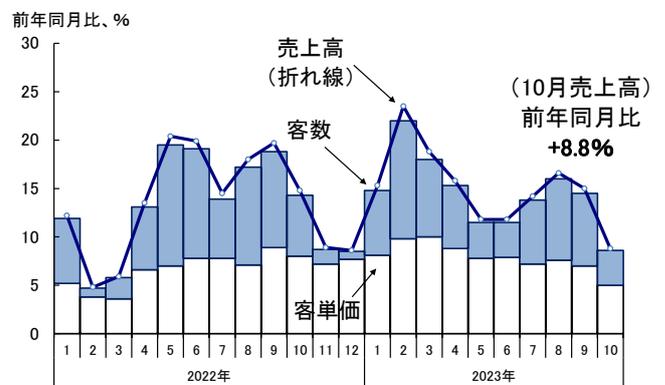
他方、一般社団法人日本フードサービス協会が集計している2023年10月の外食産業売上高(名目値、前年同月比8.8%増)の伸びは、2か月連続で鈍化した(図表2)。特に10月は、客数の伸び(同3.6%増)が9月(同7.5%増)に比べて大幅に縮小したことが、売上高の伸びを小さくさせた。前述のように、10月も飲食店での飲料需要(実質外食支出金額)は堅調であったものの、物価高騰を背景に、前年に比べると消費者の財布の紐が締めつつある。なお、10月は訪日外客数(推計値、251万6,500人)がコロナ禍後で初めて2019年の実数を上回った(2019年10月比0.8%増)。インバウンド需要の増加が外食需要を支えている可能性がある。

図表1 10月の実質外食支出金額は前月比プラス
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1:総務省「家計調査」の用途分類「一般外食」。
注2:実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所:総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業の客数の伸びが鈍化
(全国、全店、前年同月比)



注1:全店とは、既存店と新規店の合計。
注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

3. 持ち帰り米飯/回転寿司、洋風ファストフードなどの業態では客数が前年割れ

2023年10月の業態別の状況をみると、持ち帰り米飯/回転寿司、洋風ファストフード、焼き肉ファミリーレストランの3業態で客数が前年割れとなった。これらの業態は、コロナ禍下および人流が正常化する局面においては、外食の「勝ち組」であったと考えられる。持ち帰り米飯/回転寿司と洋風ファストフードは、コロナ禍下でテイクアウトやデリバリーによる販売を活用し、コロナ禍後も積極的な期間限定メニューの投入等で客数を増やしてきた。また、焼き肉ファミリーレストランもコロナ禍後の人流が正常化する局面では、家族客や小グループ客を中心にいち早く来店が増加し、相対的に客数の回復が早かった。

これら業態での10月の客数の前年割れは、単に他業態への顧客の分散の結果だけではなく、物価高騰に伴う消費の減速、すなわち家計の「財布の紐」が締められ始めたことを意味すると考える。この先、クリスマスや年末年始にかけて外食産業の繁忙期となり、実際の来店客数も堅調に推移することが期待される。しかし、その裏側では、家計の節約志向の高まりにより、消費者が相対的に安いメニューを選択することや、より低価格の業態に利用店舗を変える、さらには外食機会そのものを減らすなどの動きが強まることが懸念されよう。

図表3 外食産業売上高(2023年10月、全国、全店)

(前年同月比増減率)

業 態	店舗数	売上高	客数	客単価
全 体	36,594	8.8%	3.6%	5.0%
ファストフード	21,383	7.3%	1.9%	5.3%
洋 風	6,394	4.7%	-1.9%	6.7%
和 風	5,110	13.2%	8.0%	4.8%
麵 類	3,147	12.2%	4.6%	7.3%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,310	2.5%	-2.7%	5.4%
その他	2,422	11.9%	6.1%	5.5%
ファミリーレストラン	10,317	10.4%	7.3%	2.9%
洋 風	5,171	11.3%	8.8%	2.3%
和 風	2,519	10.8%	4.4%	6.1%
中 華	1,195	11.7%	8.6%	2.8%
焼き肉	1,432	5.1%	-1.6%	6.8%
パブ・居酒屋	1,819	12.0%	7.2%	4.5%
パブ・ビアホール	386	18.1%	11.3%	6.1%
居酒屋	1,433	9.1%	4.7%	4.2%
ディナーレストラン	939	10.7%	7.2%	3.2%
喫茶	1,897	15.3%	5.9%	8.8%
その他	239	2.4%	1.0%	1.4%

注1:全店とは、既存店と新規店の合計。

注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。

注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む。

出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認ください。よろしくお願いいたします。